

事業所名

そよかぜ

支援プログラム（参考様式） 児童

作成日

令和6年

8月

9日

法人（事業所）理念		良質の安定した、保健、医療、福祉サービスを継続して提供していけるようなシステム作りを目指し、それを実践していくことによって、地域住民から信頼され、地域のメンタルヘルス活動の拠点として役割を果たします。	
支援方針		個別療育および家庭における取組を重視しています。そのため、療育中は保護者の同席が必須です（預かりは実施していません）。短期的には幼稚園や小学校などの集団場面における適応を目指します。長期的には就労や自立した生活を目指します。個別療育では、言語訓練（音声模倣や命名課題等）や自立課題、マッチングなどを実施します。一方で、自主性を重視し、訓練への参加を強制するような対応はしません。入園した際には、情報共有を行い、必要に応じて訪問等の方法により連携を図ります。	
営業時間		【月・水・金】9時から19時まで 【火・木】9時から17時まで	送迎実施の有無 あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/>
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	【食事】偏食や食事での離席などの問題に対応しています。指導を通して、いろいろな食材を自ら食べ、食事中には席を立たずに最後まで座っていただけることを目標にします。家庭における食事場面について、必要に応じて記録をしていただいたり、場合によっては録画によって確認させていただきます。 【着脱】自分で衣服の着脱をすることができるように家庭との連携のうえで取り組みます。着衣や脱衣の際、強制や過剰な言語的指示は使用せず、身体ガイダンスによって自ら着脱ができるように練習します。	
	運動・感覚	【姿勢の保持】走る、投げるなどの粗大運動だけではなく、療育では、指先を使った微細運動を取り入れます。さらに、年齢によって異なりますが、数分間着席をして課題に取り組むことができるよう支援します。	
	認知・行動	【色・形の概念】形・色の選択肢から、見本刺激（絵カードまたは音声）と同じカードを選ぶことができるよう練習します。また、形は違うが同じ色の物を選択する課題など、色や形の次元で注意を切り替えることができるような課題にも取り組みます。	
	言語コミュニケーション	【模倣】動作模倣、口形模倣、音声模倣に取り組みます。模倣訓練を通して、視線合わせや指示従事などコミュニケーションに重要な行動を練習します。	
	人間関係社会性	【手つなぎ】手つなぎを練習することによって、散歩やスーパーなどの外出で、親子で安全に過ごすことができるようになります。相談場面において、徐々に距離を伸ばすなどして、子どもが急に走り出すなどの想定をしながら保護者に手つなぎ指導を行い、家庭と連携して取り組みます。	
家族支援		家庭における取り組みを具体的に提案し、記録を通して支援の過程を客観的に確認し助言していく。	移行支援 園と連携を図るために、必要に応じて園を訪問し支援内容等の具体的な関わり方について情報共有をする。
地域支援・地域連携		家庭に対して最適な支援が行えるよう、必要に応じて関係機関と連携を図る。	職員の質の向上 毎週、1回以上スタッフミーティングを開催し、その中で、効果的な支援について具体的に話し合い、実践に反映させている。また、利用者の行動の測定等によって取り組みの効果を常にモニタリングし、PDCAサイクルをまわしながら職員の質の向上に努めている。
主な行事等		避難訓練、お店屋さんごっこ	